

最近の主な事故事例について

- 三菱マテリアル(株)四日市工場爆発事故
- 新日鐵住金(株)名古屋製鐵所火災事故 他

三菱マテリアル(株) 四日市工場爆発事故

災害の概要等

【発生日時等】

平成26年1月9日(木) 14時頃

水素精製設備(危険物製造所)から保守作業のため昨年11月に熱交換器を取り外し、事故当日に別の場所で洗浄作業を行っている際に何らかの原因により爆発したものを。

平成26年1月9日(木) 14時21分 鎮火

【事故現場の状況】

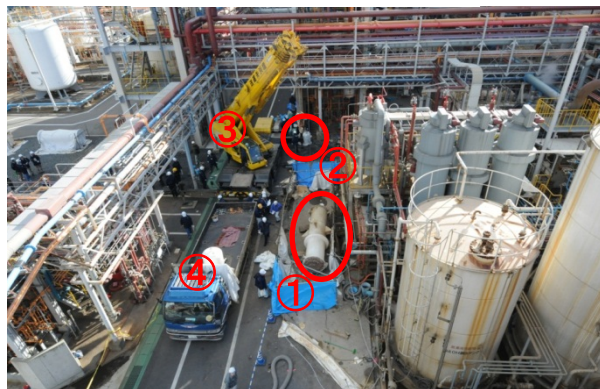
【発生場所】

特別防災区域名: 四日市臨海地区

住所: 三重県四日市市三田町5番

特定事業所名: 三菱マテリアル(株)四日市工場
第1種特定事業所※

※水素とトリクロロシラン(危険物第3類(自然発火性物質及び禁水性物質))から高純度の多結晶シリコン(半導体や太陽電池パネルの材料)を製造する事業所



- ①熱交換器本体
- ②爆発により吹き飛んだ上部側カバー
- ③上部側カバーを吊っていたクレーン
- ④午前中に取り外した下部側カバー(トラックの荷台にある)

主な被害状況(平成26年1月10日現在)

【人的被害】

死者 5名 (熱交換器の洗浄作業のためカバー(蓋)の開放作業中、何らかの原因により、爆発が発生し爆風等により吹き飛ばされた。)

負傷者 12名 (重症1名、中等症2名、軽症9名)

消防庁の初動対応

1月 9日

- ・ 消防庁次長を長とする災害対策本部を設置(16:00)するとともに、火災原因調査のため消防庁職員7名を派遣(四日市市消防本部からの要請もあったもの)。

1月10日

各都道府県、各政令指定都市に対し、「化学工場等における点検・保守等の作業中の事故防止の徹底について」を通知

- ・ 当該設備で取り扱っている化学物質(危険物を含む。)の性状、作業環境等を踏まえた危険要因を洗い出すとともに、作業手順等が当該危険要因を排除するために有効であることを確認すること。
- ・ 火災危険性を有する物質(危険物を含む。)が残留している状態で点検・保守作業を行う場合は、点検・保守作業に伴う圧力変化、温度変化、洗浄剤等使用する物質等により火災危険性が増大することがないことを確認すること。

新日鐵住金(株)名古屋製鐵所火災事故 他

災害の概要等

【発生日時等】

① 平成26年1月17日(金) 11:49頃発生(火災)

構内の火力発電所にて短絡事故に伴う火災が発生したものの。

また、当該事故の影響によって、停電が発生、第1、第2、第4、第5コークス炉のコークスガスを吸引するブロワーが停止した。ブロワーの停止に伴い、コークス炉で発生しているコークスガスを放散塔から燃焼処理し、放散したものの。(コークスガスの燃焼放散については、非火災)

平成26年1月17日(金) 12:55 鎮火(発電所の火災について)

② 平成26年1月20日(月) 9:10頃発見(非火災)

送電設備において、負荷が上昇し、過電流による停電が発生し、18日から順次稼働していた第1、第2、第4コークス炉においてコークスガスの放散を実施。

平成26年1月20日(月) 11:06 東海市消防本部引揚げ

【発生場所】

特別防災区域名: 名古屋港臨海地区

特定事業所名: 新日鐵住金(株)名古屋製鐵所
第1種特定事業所

主な被害状況(平成26年1月23日現在)

【人的被害等】

なし

愛知県、東海市の初動対応

○愛知県の初動対応

1月17日 13:10

愛知県防災ヘリ離陸

(上空偵察及び注意喚起の広報。なお、広報内容は東海市と同じ)

13:45

愛知県災害対策実施要綱に基づく第1非常配備体制

(防災局及び出先機関)

愛知県石油コンビナート等防災本部に情報連絡班設置

防災局職員4名を現地派遣(14:40現着)

出先機関4名(防災2名、環境2名)を現地派遣

1月20日 14時過ぎ

消防と合同で現場立入調査(防災局職員3名、出先機関1名派遣)

○東海市の初動対応

1月17日 13:45

「臨海部で火災発生。外出等はできるだけ控え、今後の情報に注意」するよう広報を実施。

周辺地域において、一酸化炭素濃度測定を実施。

1月20日 広報車、防災スピーカー等により外出を控えるよう広報を実施。

周辺地域において、一酸化炭素濃度測定を実施。

消防庁の初動対応

1月20日

新日鐵住金(株)から事故の対応等を聞き取り。

原因の究明、再発防止を要請。